

令和3年度 研究構想

江津市立高角小学校

研究主題

「自らの考えをもち、互いの考えを伝え合う児童の育成」
～算数科・生活科の授業づくりを通して～

(1) 本年度の取組について

昨年度に引き続き、研究主題を「自分の考えをもち、互いの考えを伝え合う児童の育成～算数科・生活科の授業づくりを通して～」として算数科、生活科の2教科を中心に「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業づくりに取り組む。

「めざす児童像」について（昨年度の主題設定より）

学校教育目標

豊かな心とたくましさをもち、確かな学力を身につけた子どもの育成

- ・たかめる子・・・向上心を持ち、よく考え、表現しようとする力
- ・つながる子・・・あきらめず、課題に向き合い、解決しようとする力
- ・のびのびする子・友だちと助け合って、楽しみ・喜びを創り出す力



- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善プロジェクト事業の推進
- ・学力調査結果の検証を授業改善に生かす（授業改善アクションプランの推進）

(2) 主題の解釈

自らの考えをもち	互いの考えを伝え合う
<p>算数科</p> <ul style="list-style-type: none">○課題を把握し、解決の見通しをもつ○自分の考えを式や図、言葉などを用いて表現する○友だちとの話し合いによって、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする <p>生活科</p> <ul style="list-style-type: none">○体験活動などを通して様々な気付きをもつ○体験活動や表現活動をくり返すことで、思いや願いをもつ	<p>算数科</p> <ul style="list-style-type: none">○根拠や理由を明らかにしながら、式や図、言葉などを用いて説明し合う○わからないことに対して質問をする <p>生活科</p> <ul style="list-style-type: none">○発見したことを比べ、似ているところや違うところを見つける○体験したことや調べたことを友だちや地域の人々などに多様な表現で伝える
<p>○「考えをもつ」→「伝え合う」→「考えをもつ（深める）」→「伝え合う」…をくりかえして、学びを高めたり、深めたりしていく。</p>	

(3) 研究仮説と具体的な手立て

算数科

【仮説1】問題や提示方法を工夫し、児童の疑問や解決に向けた見通しをもとに学習課題やめあてを設定すれば、課題追究意欲が高まり、すすんで自分の考えをもち表現するであろう。

【仮説2】児童の考えを交流させるような話合いの場面を設定すれば、互いの考えについて理解したり、新たな課題を見つけたりして、学びを深めることができるであろう。

生活科

【仮説1】身近な人々、社会及び自然との関わりに関心がもてるような単元構成を工夫すれば、児童の興味や関心を高め、自分の思いや願いをもつことができるであろう。

【仮説2】表現するための基礎的な力を育成し、考えを交流させるような話合いの場面を設定すれば、新たな気づきが生まれ、自分の考えを広げ、深めていくことができるであろう。

仮説1に対して「児童が自分の考えをもち、表現するための工夫」、仮説2に対して「考えを交流し、深めるための工夫」として、各教科で具体的な手立てを考え、授業の中に取り入れていく。

(4) 手立ての検証

○教師の取組の評価

→授業中の教師の発問、課題設定や話合いに関わる工夫がどのようにされていたか等を授業後の研究協議で検証する。

○児童の学習活動や達成状況の評価

→授業中の児童の発言や記述、評価問題への取組、ふりかえりにおける自己評価で検証する。

○年間の取組を通した児童の学習の習熟度や意識の変容の評価

→児童アンケート（年2回）、各種学力調査等の調査により検証する。

※「考えを伝え合うこと」に関する項目の肯定的回答率70%以上（3年次は75%以上）を目指す。

(5) 研究の成果と今後すすめていきたいこと 昨年度のふりかえりより

(○：成果 ☆：今後すすめていきたいこと)

① 児童が自分の考えをもち、表現するための工夫について

○ 日常生活に即した問題や、前時の学習やふりかえりを生かした問題など、問題の内容や提示方法（ICT機器、実物など）を工夫することで、児童が課題解決に対する見通しをもつことができた。

○ 児童の課題に対する見通しをもとに、児童とともにめあてを設定することができた。

☆ ICT機器の効果的な活用方法を考え、授業の中で実践していく。

→教師…実物投影、前時の様子のふりかえりなど、導入場面での活用

→児童…タブレット端末をノートとして用いる、活動の様子を写真や動画で記録するなど

② 考えを交流し合い、学びを深めるための工夫について

○ ペアや小グループでの話合いを積極的に取り入れたことで、抵抗なく話合い活動に取り組める児童が増えた。

☆ 目的を明らかにして話合いに取り組むことで、考えを整理したり、理解をより深めたりするなど、ペア学習のよさをいかしていけるようにする。

☆ 児童同士の対話を増やしていくための教師の関わり方（問い返し、児童をつなぐ言葉など）について考え、実践していく。